

ティーチング・ポートフォリオの更新に向けた 日常的な教育活動の情報整理の試行

高井 久美子[†] 渡辺 博芳[†] 溝口 佳宏[‡]
帝京大学理工学部[†] 帝京大学経済学部[‡]

1.はじめに

ティーチング・ポートフォリオ (TP) とは「自らの教育活動について振り返り、自らの言葉で記し、多様なエビデンスによってこれらの記述を裏づけた教育業績についての厳選された記録」⁽¹⁾であり、近年、高等教育において広がりつつある。実際にファカルティ・デベロップメント (FD) の一環で TP を作成して Web などにより公開している事例や、昇任審査の際の資料として利用される事例が散見される。

そこで、本研究では TP の作成と更新の作業を支援する方策について検討し、教員の日常的な教育活動と関連付けて日頃から授業に関する情報を蓄積し管理するツールを提案した⁽²⁾。本発表では教育活動と TP との関連、開発したツールについて述べ、日常的な教育活動の情報整理の試行について報告する。

2.教育活動とティーチング・ポートフォリオ (TP) の関連付け

一般に、TP は A4 で 10 ページ程度の TP 本文 (厳選された記述) と根拠資料 (エビデンス) の 2 つから構成される。本研究では TP 本文に含まれる内容を以下の 5 つの構成要素で表現する。

- 「教育の責任」 「教育の理念」
- 「教育の方法」 「教育の成果」
- 「今後の目標」

これらは、TP 本文の章構成自体ではない。実際には、TP を作成する際に特定の形式を強制されることはなく、作成者が自由な構成をとることが多い。このような TP の構成要素を前提とした上で、我々は日常の教育活動と TP 本文の関連を図 1 のように対応付けた。

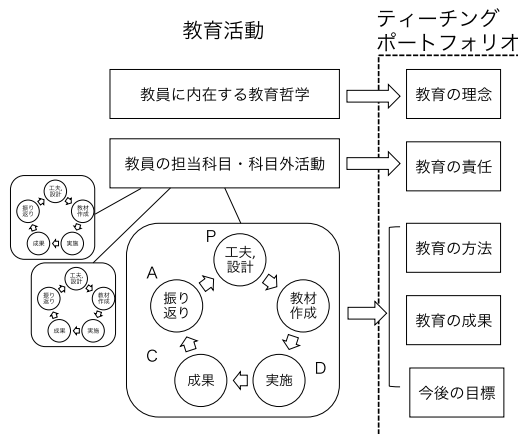


図 1 教育活動と TP 本文の関連

TP の「教育の理念」は教員に内在する教育哲学を外化して記述したものであり、「教育の責任」には担当する科目や割り当てられた科目外活動などが記述される。教員はそれらの科目や科目外活動に対して、日常的に PDCA (Plan-Do-Check-Action) のサイクルに沿った教育活動を行っている。大まかに言えば、これらの活動の工夫・授業設計、教材作成、授業実施から「教育の方法」、成果の確認により「教育の成果」、振り返りから「今後の目標」の各項目に記述する内容を精選する。ただし、「今後の目標」は各科目と言うよりは「教育の責任」の範囲全般に関して記述されることが多い。

3.日常的な教育活動の情報整理ツール

図 1 に示した日常の教育活動の PDCA サイクルに沿った形で情報の整理を容易にすることを旨として、日常的な教育活動の情報整理ツールを提案した。日常的な教育活動と TP に記載する内容を関連付けることで、TP の更新へとつながることが期待される。

ツールは、(1)蓄積、(2)検索、(3)閲覧、(4)リマインダの 4 つの機能を持つ。日常の教育活動の中で、収集した情報の概要をまとめておくこと、たとえば導入した工夫に対するどのような成果があったのかについて随時入力しておく

A Trial of Organizing Information on Educational Activities toward Updating Teaching Portfolios

Kumiko Takai[†], Hiroyoshi Watanabe[†], Yoshihiro Mizoguchi[‡]

[†]Faculty of Science and Engineering, Teikyo University

[‡]Faculty of Economics, Teikyo University

ことは、その時々気づきや授業改善につながるアイデアなどを散逸させることなく蓄積することにつながる。

このツールは、教員が個人的に利用することを想定している。そこで、Google が提供している JavaScript ベースの開発環境である Google Apps Script (GAS) を利用して実装した。個人の Gmail アカウントで Google Drive のスプレッドシートに情報を蓄積し、そのスプレッドシートに関連付けた GAS によって各機能を提供する。これによって、Web 上で教育活動に関する情報を管理できる。

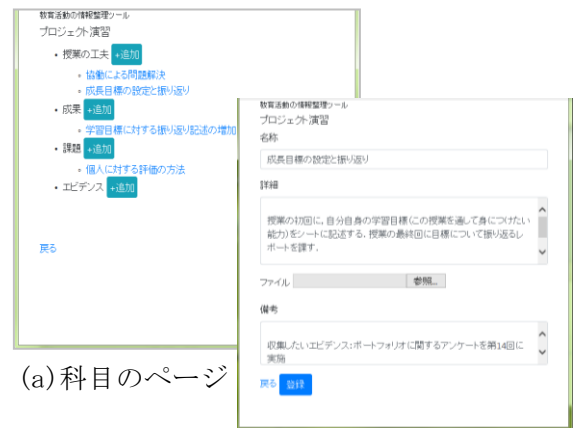
教育活動に関する情報は、担当する科目ごとに、「工夫」「成果」「課題」「エビデンス」の4項目について蓄積し、管理する。科目の編集ページの例を図 2(a)に示す。科目以外でのプロジェクトの指導などについての情報を管理する場合は、科目の所にプロジェクト名などを設定して関連する情報を管理することを想定している。図 2(b)に授業の工夫の編集ページの画面例を示す。このように、上で述べた4項目について名称、詳細記述を入力しておく。必要に応じて関連するファイルを添付し、備考を記述しておく。

トップページには担当する科目ページへのリンクを配置するほか、検索用のキーワード入力欄を配置し、蓄積した情報の全体からキーワードを含むページを検索できる。リマインダ機能は、実施内容と通知時期を入力しておくことで、メールでリマインダを通知する機能である。これは授業での工夫を検討しているときに、その成果を確認するためのアンケートやヒヤリング、テスト結果の分析などの実施時期が近づいたときにリマインダを通知することなどを想定した。

4. 教育活動の情報整理に対する考察

開発したツールを著者グループで試用し、教育活動に関する情報の蓄積を試みた。各自担当する2科目程度について、授業の工夫、成果、課題、エビデンス等を入力し、検索、閲覧を行った。現時点では日常的な使用には至っていないが、授業改善における本ツールの有用性を示唆する以下のような所感が挙げられた。

- 教育の方法を細かいレベルに分けて記述することによって、自分の授業の方法を整理するという点で一定の効果があると考えられる。
- これらの記述を教員間で共有できれば、授業設計の参考にでき、有用であると思われる。
- 日常的な教育活動の PDCA サイクルを意識付けるといふ意味での効果もありそうである。



(a) 科目のページ

(b) 授業の工夫の入力ページ

図 2 ツールの画面例

一方で、授業の工夫や成果として何を入力してよいかわからない場合がありうるという所感もあり、入力のための適切なガイドや記入内容の共有などで対処することが考えられる。また、本ツールによる情報の蓄積や整理を TP の作成・更新に直接つなげるためには、備考欄などを利用して授業の工夫などが自分の「教育の理念」にどう関係するかを記述しておく必要があるのではないかという指摘もあった。

5. おわりに

本稿では、TP の更新に対する支援を指向した日常的な教育活動の情報整理ツールと、ツールを用いた情報の整理の試行について述べた。日頃の教育活動と関連付けて記述することで、自分の授業の方法を整理することにつながり、教員間での記述の共有によって授業設計の参考になることや教育活動の PDCA サイクルを回す意識付けなどの意義が挙げられる。今後は、日常的に使用することによって TP の更新の支援に対する有用性を確認したい。

本研究の一部は JSPS 科研費 JP16K01077 の助成を受けた。

参考文献

- [1] 栗田, ティーチング・ポートフォリオとは、評価結果を教育研究の質の改善・向上に結びつける活動に関する調査研究会報告書「日本におけるティーチング・ポートフォリオの可能性と課題- ワークショップから得られた知見と展望 -」, 大学評価・学位授与機構, pp. 1-6 (2009)
- [2] 高井, 渡辺, 溝口, ティーチング・ポートフォリオの更新に向けた日常的な教育活動の情報整理ツール, 大学 ICT 推進協議会 2018 年度年度大会論文集, TB2-6, (2018).